

へき地複式教育研究発表

本校での教育活動を、「へき地複式教育研究大会」にて紙面発表となりました内容を、ここで紹介させていただきます。

小規模校、少人数指導のよさを生かした教育活動

〓コロナ禍の令和二年度を振り返って〓

一 はじめに

本校は、日光市の南東部に位置し、県西部を流れる黒川源流域の四方を静かな里山に囲まれた盆地にある学校です。今市―古峰ヶ原、清滝―板荷をそれぞれ結ぶ二つの道が交差する所に位置した自然環境に恵まれた地域です。児童十三名、生徒二名、計十五名の子どもたちが、朗らかに穏やかに学校生活を送っています。

例年、地域学習や農園活動など地域の方々の協力を得て行ったり、運動会や文化祭、盆踊りなど地域と一体となった活動を展開したりしていますが、今年度は、コロナ禍の影響から、中止もしくは、内容を縮小・工夫しての実施となりました。しかし、子どもたちは、学校で学習できる喜びをかみしめ、大きく成長していると感じています。それらの活動の一部を御紹介します。

二 小来川のいわれ

十四世紀の南北朝時代の後半、南朝の忠臣と言われた藤原(万里小路)藤房卿は、鹿沼市北方まで落ち



【創作部所有のドローンにより撮影】

延びます。そして、今の小来川の森崎(黒川神社付近)まで来たとき、薬師堂の丘から眺めた景観を見て感銘を受け、次のような和歌を詠まれたとされています。

湧き出でし 水上清き小来川

真砂も瑠璃の光をぞ添う

この「小来川」の文字が、地名として今日まで伝わっているといわれています。

三 学校教育目標

心身の健康を一切に、学びを求め、礼節を舍す児童・生徒

〇学校経営の基本理念

一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、児童生徒自ら現在及び未来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成に努める。

〇目指す学校像

子どもの現在及び未来を保障する学校

〇目指す児童・生徒

一生懸命でコミュニケーション力が高く光る子ども

〇目指す教職員像

子ども・保護者・地域と共に歩む教職員

「小中一貫を推進し、情報共有・協働活動することにより、教育活動の充実を図る」「キャリア教育を推進し、児童生徒の社会的自立への意欲を高める」「学び合いの充実を図り、少人数の良さを生かしたわかる授業に努める」の三つの**学校経営の方針**のもと、学校教育目標の具現化に向けて、教職員が一体となつて教育活動を展開しています。

四 教育活動の様子

(一) 入学式(四月九日)



三密を避けるために、児童生徒、保護者、教職員のみの入学式となりました。

今年度からは、保護者と児童生徒、教職員を合わせても少人数であることから、暖房が設置されていて環境が整っている多目的教室での実施となりました。

なりました。

小中学校合同で実施し、小学生三名、中学生一名を迎えることができました。

(二) 臨時休業中の職員研修

臨時休業中には、家庭訪問や学校再開に向けての諸準備を進めるとともに、様々な職員研修を行いましたので御紹介します。

① 池の水源調査(四月十六日)

学校の西に流れる西黒川を渡った山の中腹の沢水を水源に、高低差を利用して、学校まで水を引いています。大雪によって一度、水の供給が途絶えました。が、本校の労務主事によって修理され、現在も池の水

を満たしております。また、学校農園の散水用にも活用しています。



② 学校林探索(四月二十一日)



学校林の歴史と現在の状況等について理解し、地域の人材と教育資源を生かし、今年度、展開された日光みらい科などのよりよい教材づくりの一助となりました。

石碑には、「学校植林運動が目的とする国土緑化

や植樹による児童生徒の生活態度作りを達成しながら、育成された学校の教育施設を充実する財源になることは、教育の振興上、物心両面の効果が大きいであろう。」と刻まれています。

また、学校林経営の方針として、勤労精神習得、森林(郷土)学習、児童生徒の憩いの場の三つの基本的な考えが、当時(昭和五十五年三月)の校長の書で記されています。

③ 農園活動(四月十六、五月八日)

ジャガイモの植え付けを行いました。例年は、子どもたちとともに実施していますが、臨時休業中により、教員とボランティアの方々での作業となりました。

この他に、臨時休業中にナス、ミニトマト、キュウリなどの苗の植え付けを行い、ホームページにて、子どもたちに、学校が再開したら、収穫したり、給食でいただいたりしようと呼びかけを行いました。



(三)分散登校(五月十八日～二十九日)
①昇降口での健康チェック



昇降口にて、消毒、体温、健康チェックカードの確認を行うようにしました。学校再開後もスタンダードな登校風景となっています。

②手洗い指導と家庭学習支援



一時間目に、養護教諭から手洗いの仕方について指導を行いました。

また、家庭学習支援として、日光市教委から提供

いただいた学習支援サービスeライブラリアドバンスの使い方の指導を行いました。臨時休業中の課題の取組状況の確認などを行うとともに、前年度の未履修内容の学習も進めました。

③授業再開



教室では、机の間隔をあけ、理科室では一人テーブルでの授業をしています。



運動不足を少しでも解消するために、業間や昼休みの時間は外遊びを励行しました。

また、本校の伝統でもある農園活動も再開しました。まずは、サツマイモの植え付けを実施しました。

(四)学校再開(六月一日～)

①学校再開

臨時休業が終わり、学校が再開されました。集会が行われ、学校長より、休業中の生活の振り返り、これからの学校生活での心がけ、コロナウイルスと戦っている方々への感謝についてなどの話がありました。



教室では、保健指導を徹底し、感染症対策のポイントである「感染源を絶つこと」「感染経路を絶つこと」「対抗力を高めること」などについて、学級活動で指導をしました。

また、集団感染のリスクを回避するために、次の三つの対応などを確認しました。

- ・換気の悪い密閉空間にしないための換気を徹底する。
- ・多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮をする。
- ・手洗いを徹底し、近距離での会話や大声での発声ができるだけ控える。

②マスクの外し方指導

「正しいマスクの外し方」について養護教諭から指導を行いました。ウイルス汚染の可能性があるマスクの表面、裏面を触らずゴム紐を持つて外すことがポイントです。



③新しい登下校スタイル

みんなでマスクを外す練習をして、上手にマスクを外すことができるようになりました。
また、給食などでマスクを外すときは、個人のケースに入れて、汚染防止に努めています。



マスクを付けての登下校に加え、スクールバスの登下校のしかたも変更になりました。

一斉下校の場合、スクールバスが定員一杯の乗車となってしまうので、方面によって二コースに分けての下校となりました。

少し待つことにはなりますが、スクールバスに乗る人数を少なくすることができました。また、こまめな消毒の実施、換気のため常に窓を開けています。

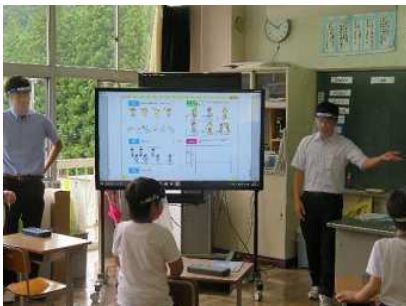


④新しい給食スタイル



六月一日は、約二か月ぶりの給食になりました。まず、健康状態等のチェックを行います。次に、石けんでの手洗い、手指のアルコール消毒をします。配膳台等の消毒は、四校時空き時間の教員が行っています。配膳は教員と少人数の給食当番で行いますが、自分の分は自分で運ぶようにしています。座席は、全員同じ方向を向いて座るようにしています。

⑤新しい英語授業と調理実習スタイル



英語等で口元が見えないと学習効果が上がらない教科について、フェイスシールドを使用しています。
調理実習では、新型コロナウイルス感染症予防対策チェックリストを作成して実施しています。

⑥新しい音楽スタイル



感染リスクの少ない打楽器などを中心に使用して授業を行っています。ハンドベルも新たに購入しました。これまで考えてきたリズムを表現したり、曲にあわせて演奏したりしました。これまでの音楽の授業のように、大きな声で歌ったり楽器を交換しながら演奏したりすることはできません。たくさんの方の前で、演奏することもできません。しかし、音楽を楽しむ姿は変わりありません。

⑦オンライン交流学習



九月から始めた中宮祠小学校とのリモート授業を紹介します。真剣に考え、進んで発言しようという熱意の高まりが感じられます。両校の児童にとつて、同世代の多様な意見に触れる絶好の機会となっています。

(五) 地域の教育的資源を活用した取組

① 小学校農園活動や稲作体験



学校支援ボランティアの方々などの御指導をいただきながら、様々な野菜、もち米、ソバ栽培が実施できました。例年は収穫した餅米で「餅つき」を行います。しかし、今年は、コロナ禍ということで、餅つきは行うことができず、感謝の会を開催しました。また、ソバ打ち体験も同様に実施できず、その代わりに、地域の方々がそばを打って届けてくださいました。学校で育てたソバの味を各家庭で味わうことができました。

② 中学校日光みらい科



「学校林調査」「木工所での職業調査」などの活動を行いました。「学校林調査」では、地域の方の案内のもと、学校林を見学し、その歴史と現在の状況等について理解することによって、地域を探究することができました。

調査した内容をまとめ、わかりやすく小学生と教員に伝える活動をしました。

例年はマイチャレンジを実施して、様々な職業体験等を行います。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日光市全体で中止となりました。

そこで、地区内の事業者の方に協力いただき、職業調査を主目的とした調査活動を行いました。

③ お囃子(九月十五日)



例年は、何回か練習して地域の盆踊りやふるさと大運動会で披露していました。今年はどちらも中止となつてしまったので、披露する機会はありませんでした。今後につなげるために地域のお囃子会の方などを講師に招いて練習をしました。

た。児童は、地域のお囃子で練習していることもあり、最後は歌も合わせて演奏ができました。来年度は晴れ舞台があることを期待しています。

④ 書道教室(十月十三日、二十日)



書道の先生に来ていただき、体育館での開催となりました。文字文化の豊かさにふれて、様々な書体を学ぶことができました。講師の先生のアドバイスで、どんどん上達する様子が見られました。

⑤クラブ活動(七月二十七日)



クラブ活動の時間に子どもたちの計画のもと近くの川に向きました。魚の稚魚やオタマジャクシを夢中になってとる子どもたちの姿がみられました。

今年度はコロナの影響でプールの授業ができなくなつたので、短い時間でしたが、水遊びができてとても楽しそうでした。小来川の大自然の中で遊べるのは、子どもたちにとつて幸せなことだと感じました。



⑥様々な学校支援ボランティア

学校支援ボランティアの皆様により、様々な活動が展開されています。

農園活動に加え、図書ボランティアによる図書の受付、図書室の飾り付け、読み聞かせ、お掃除し隊の活動による特別教室等のワックス塗り、フジ棚の剪定作業など、よりよい教育環境づくりに向けて、大きく貢献していただいています。



(六)学校行事

①小中運動会(九月二十六日)

今年度は、学校だけの開催となりました。また、練習時間も少なく、特設の時間も設けることができませんでした。種目を大幅に見直し、ボール蹴りリレー、親子紅白リレー、ティーボールなど感染防止を考えた種目や親子競技を中心に実施しました。ソーシャルディスタンスを保ち、密を避けて無事終了することができました。



②小学校修学旅行(十月六日、七日)

一日目は、那須どうぶつ王国、南ヶ丘牧場を見学し、ホテルエビナール那須に宿泊しました。

二日目は那須ハイランドパークでした。一番に入場して、乗ることを計画したアトラクションを次々に制覇しました。

移動時間が短い分、見学や体験活動をじっくりと行うことができました。



③宿泊学習(十月二十九日、三十日)
小学三・四生を対象に鹿沼市自然体験交流センターで一泊二日の宿泊学習を実施しました。中宮祠小学校と活動しました。
板とひもを使って、苦労しておこした火を使って、杉板焼きをしました。休み時間では、敷地内のアスレチックで、中宮祠小学校の児童と遊ぶ姿が見られるほど打ち解けていました。両校児童ともに、新たな自分を発見できたようでした。



(七)校内外での様々な研修
①授業研究会(十月十四日)
学校課題を推進するために、上都賀教育事務所学校支援課の指導主事をお招きして、研究授業と授業研修会をしました。
今年度の学校課題は、「児童生徒が『深い学び』に至るための授業の改善」です。研究授業の中で、深い学びに至った様子や至らなかった状況を見取り、研究会で話し合いました。
講師の先生方からは、考える必要性のある課題の与え方、沈黙の時間、思考を待つ時間の必要性、授業研究会の目的に応じた手法についてアドバイスをいただき、その後の授業や十二月九日に行った現職教育「学校課題の推進に向けて」の実践などに役立てることができました。
②教育講演会(十一月四日)

「子どもの言語発達と国語の授業づくり」と題して、宇都宮大学共同教育学部の准教授をお招きして、児童生徒の言語発達、様々な実践事例、授業づくりの観点などについて御教授いただきました。

主体的に言葉に向き合おうとする機会づくり、子どもの弊害となるものを取り除く大切さなどを学ぶことができました。

五 成果と課題

(一)成果

コロナ禍であっても、感染拡大防止対策を講じることによって、多くの教育活動が展開できました。小規模校ならではの強みを生かして、子どもたち一人一人に地域資源や実物などを使った教材を用意し、実感を伴った指導を行うことができています。

他校との交流・連携については、コミュニケーションアプリを活用したりリモート授業、宿泊学習や他校の授業を参観させていただくなどして、子どもたちの学びに向かう意欲の高揚や教員の指導力向上につなげることができました。

ほぼ例年どおりの学校支援ボランティア活動を途絶えさせることなく、継続することができたことは、次年度以降の財産であると感じています。本活動によつて、子どもたちへ情操教育、よりよい教育環境づくりにつながりました。

(二)課題

アフターコロナを見据えた教育活動の見直しが必要であると感じています。今後も、様々な制約が求められると想定される中で、小規模校にとっては貴重な教育活動である他校との交流や地域との連携の在り方を再考し、可能な限り継続していくことが実りある教育活動につながっていくと思います。